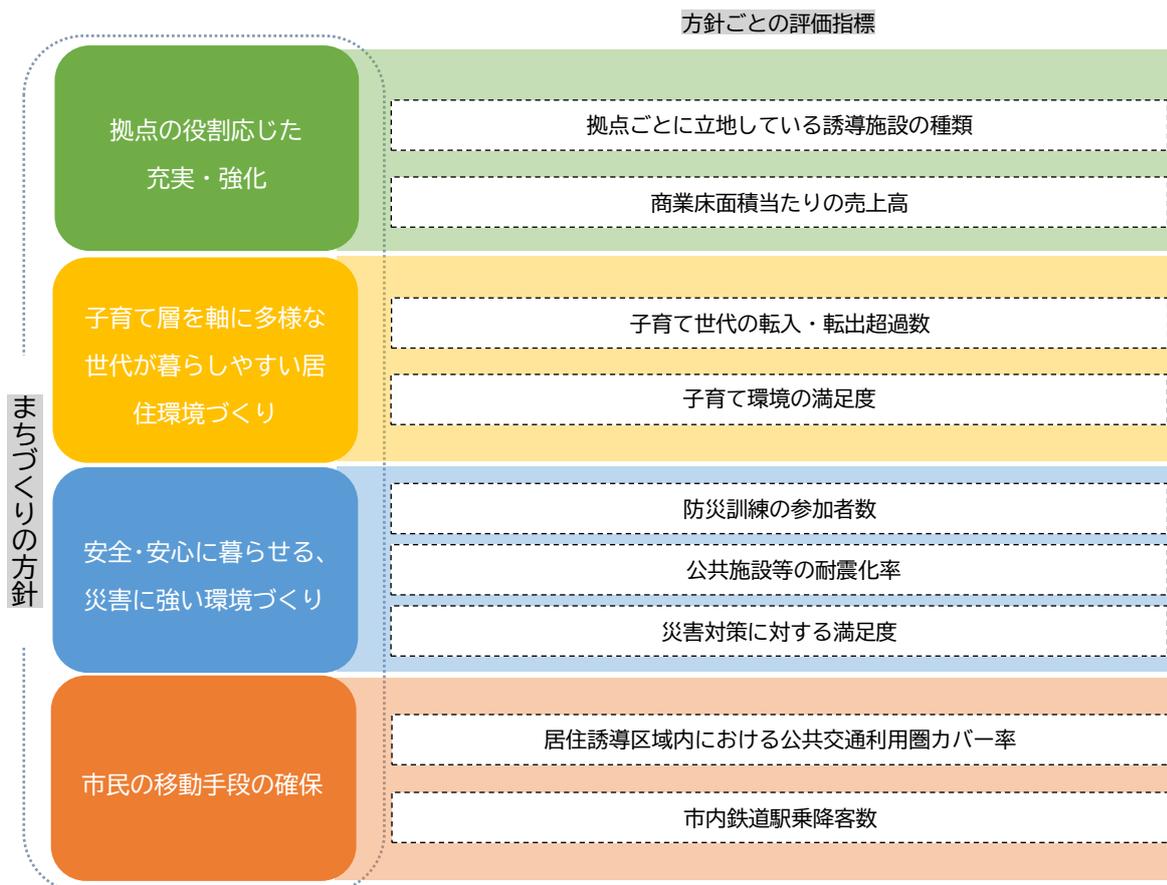
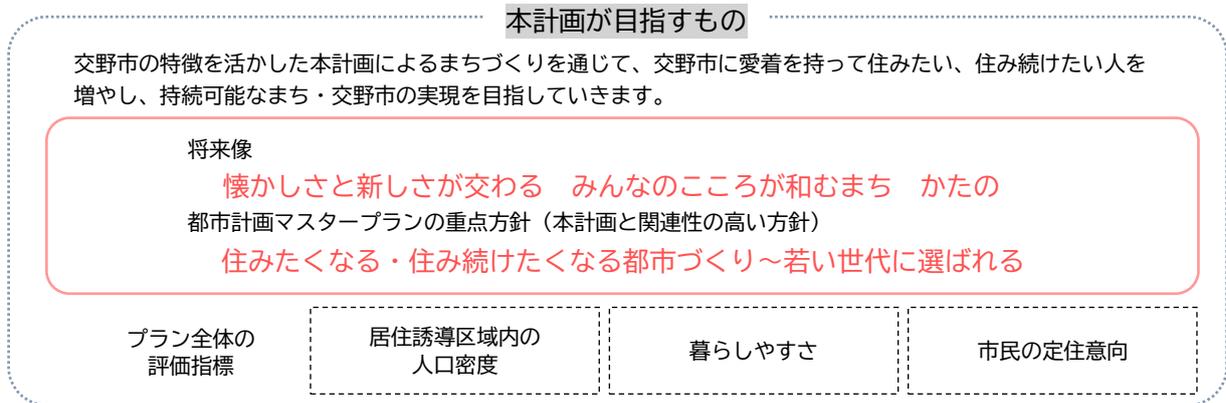


## 8. 評価指標と目標値及び評価方法

### (1) 基本的な考え方

評価指標と目標の方向性の設定に際しては、以下の点を考慮して検討を行います。

- 本計画のまちづくりの方針と紐づけて、どのような評価指標が適切かどうか
- 継続的に算出・計測が可能かどうか
- 本市が目指す都市の将来像を評価・判断できるものであるかどうか



本計画の評価の考え方（イメージ）

## (2) 評価指標と目標値

本計画期間において、施策の進行状況や社会情勢の変化を考慮し、最善の指標を設定し、定期的に評価・検証を行い、必要に応じて施策や目標値等の見直しを行います。

評価指標については、課題解決のための方針・誘導施策によりめざす目標とともに、目標達成により期待される効果について、次のように設定します。

### プラン全体

#### ○評価の視点

交野市の特徴を活かした本計画によるまちづくりを通じて、交野市に愛着を持って住みたい、住み続けたい人を増やし、持続可能なまちづくりができているかを確認します。

定量的な評価指標	基準値	目標値
居住誘導区域内の人口密度 【国勢調査の人口による】	76.7 人/ha (令和 2(2020)年)	73.8 人/ha (令和 32(2050)年)
指標の設定理由	目標値の考え方	
住みたい、住み続けたい人が増え、人口減少が大きく進んでいないかを把握するため	居住誘導区域内に居住している人の数が一定維持されている状態を目指す	

※令和 32(2050)年社人研準拠による趨勢値 (56.1 人/ha)

(目標値は交野市人口ビジョン(令和 4(2022)年改訂版)を基に算出)

定量的な評価指標	基準値	目標の方向性
暮らしやすさ 【「住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らしている」と思う市民の割合】	89.0% (令和 4(2022)年)	
指標の設定理由	目標の方向性の考え方	
暮らしやすく、住みたい、住み続けたいにつながる環境が整っているかを把握するため	暮らしやすいと思っている市民が増加している状態を目指す	

(出典：第 5 次交野市総合計画)

定量的な評価指標	基準値	目標の方向性	
市民の定住意向 【「今後もまちに住み続けたい」と思う市民の割合】	(全 体)	84.2%	
	(29 歳以下)	51.1%	
	( 30 歳代 )	84.0%	
	( 40 歳代 )	86.1%	
	(50～64 歳)	82.4%	
	(65 歳以上)	94.3%	
指標の設定理由	目標の方向性の考え方		
住み続けたい人が増えているかを把握するため	今後もまちに住み続けたい市民が増加している状態を目指す		

(出典：交野市総合計画策定のための市民アンケート調査 (令和 4(2022)年))

**まちづくり方針：拠点の役割に応じた充実・強化**

○評価の視点

拠点の役割に応じた都市機能の充実・強化により、交野らしさを活かして住まいとして選ばれるようになっているかを確認します。

定量的な評価指標	拠点	基準値 (令和 7(2025)年)	目標値 (令和 27(2045)年)
都市機能誘導区域内に立地している 誘導施設の種類の種類	交野市駅周辺	3種類	4種類
	星田駅周辺	3種類	3種類
	河内磐船駅・ 河内森駅周辺	0種類	2種類
地域の特色に応じた誘導施設の種類の種類	私市駅周辺	3種類	3種類
	郡津駅周辺	2種類	2種類
指標の設定理由		目標値の考え方	
拠点に誘導施設の誘導が図られ、拠点の役割に応じた充実・強化がされているか把握するため		誘導施設が拠点に維持あるいは誘導されていることを目指す	

定量的な評価指標	基準値	目標の方向性
商業床面積当たりの売上高 【小売業の年間商品販売額(円)/売場面積(m <sup>2</sup> )】	131.7万円/m <sup>2</sup> (令和 3(2021)年)	
指標の設定理由	目標の方向性の考え方	
商業機能が充実・強化され、まちの活力の維持向上が図られているかを把握するため	商業機能が充実、強化され、床面積当たりの売上高が増加していることを目指す	

(出典：経済センサス - 活動調査 (令和 3(2021)年))

**まちづくり方針：子育て層を軸に多様な世代が暮らしやすい居住環境づくり**

○評価の視点

多様な暮らしに対応できるまちづくりにより、従来のようなライフスタイルだけでなく、ライフステージにあった暮らし方など、誰もが暮らしやすいまちが実現できているかを確認します。

定量的な評価指標	基準値	目標の方向性
子育て世代の転入・転出超過数	(0~14歳) 198人	
	(20~40歳代) 90人	
	令和 5(2023)年	
指標の設定理由	目標の方向性の考え方	
子育て層の転入・転出の動向を把握し、子育て層が暮らしやすい居住環境づくりが進んでいるかを把握するため	転入超過数が増加していることを目指す	

(出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査)

定量的な評価指標	基準値	目標の方向性
子育て環境の満足度 【「地域のつながりや支え合いにより安心して子育てできる」と思う市民の割合】	79.8% (令和4(2022)年)	
指標の設定理由	目標の方向性の考え方	
子育て層の満足度を把握し、子育て層が暮らしやすい居住環境づくりが進んでいるかを把握するため	安心して子育てができる人が増加していることを目指す	

(出典：第5次交野市総合計画)

## まちづくり方針：安全・安心に暮らせる、災害に強い環境づくり

### ○評価の視点

安全・安心な環境づくりにより、総合的に災害リスクに対応できるようになっているかを確認します。

定量的な評価指標	基準値	目標の方向性
防災訓練の参加者数 (市又は地域が主催する訓練)	355人 (令和3(2021)年)	
指標の設定理由	目標の方向性の考え方	
市民の防災知識・技術や自助・互助・共助に対する意識について確認し、安全・安心に暮らせる環境づくりが進んでいるかを把握するため	災害リスクの低減（ソフト）のための取組みにより安全・安心な環境づくりが進んでいることを目指す。	

(出典：第5次交野市総合計画（自主防災組織の組織率）)

定量的な評価指標	基準値	目標値
公共施設等の耐震化率	(市有建築物の耐震化率) 79.0% (平成27(2015)年)	
	(上水道基幹管路耐震化率) 25.5% (令和3(2021)年)	
指標の設定理由	目標の方向性の考え方	
地震時に避難所・防災拠点となる建築物が多い市有建築物や水道施設の耐震化の進捗状況を確認し、安全・安心に暮らせる環境づくりが進んでいるかを把握するため	災害リスクの低減（ハード）のための取組みにより安全・安心な環境づくりが進んでいることを目指す。	

(出典：第5次交野市総合計画、交野市国土強靱化地域計画)

定量的な評価指標	基準値	目標の方向性
災害対策に対する満足度 【「地域において防災・減災の取り組みが進んでいる」と思う市民の割合】	56.1% (令和4(2022)年)	
指標の設定理由	目標の方向性の考え方	
防災・減災の取り組みの進捗状況や市民の認識を把握し、安全・安心に暮らせる環境づくりが進んでいるかを把握するため	防災・減災の取り組みにより、安全・安心な環境づくりが進んでいると思う市民が増加していることを目指す	

(出典：第5次交野市総合計画)

**まちづくり方針：市民の移動手段の確保**

○評価の視点

公共交通が利用しやすい交通環境づくりが実現できているかを確認します。

定量的な評価指標	基準値	目標の方向性
居住誘導区域内における 公共交通徒歩圏人口カバー率	約9割 (令和6(2024)年)	→
指標の設定理由	目標値の考え方	
公共交通のカバー状況を確認することで、市民の公共交通の利用しやすさを把握するため	充実した鉄道網を活かしつつ、バス等も含めて総合的に公共交通が利用しやすい交通環境が維持できていることを目指す	

定量的な評価指標	基準値	目標の方向性
市内鉄道駅乗降客数	2,0356万人/年 (令和4(2022)年)	→
指標の設定理由	目標値の考え方	
鉄道の利用状況を把握することで、市民の公共交通の利用しやすさを把握するため	鉄道が日常的に利用され、将来的にも鉄道を利用している人が維持されることを目指す	

(出典：京阪電気鉄道㈱、西日本旅客鉄道㈱)

### (3) 評価方法

立地適正化計画は、都市再生特別措置法第 84 条において、おおむね 5 年ごとに施策の実施状況に関する調査・分析・評価を行うよう努めるとともに、必要があると認められる場合には、当該計画および関連する都市計画を変更することとされています。

また、本市の都市計画マスタープランは、令和 14（2032）年度を目標年次としており、これにあわせた定期的な見直しが予定されています。

立地適正化計画は、都市計画マスタープランとの整合を図りつつ運用する必要があることから、マスタープランの進捗管理の仕組みと連携し、計画全体の進行管理および評価を行います。その上で、必要に応じて適切な時期に立地適正化計画の見直しを実施します。

なお、誘導施設や誘導施策については、市の施策の進捗状況や民間事業者の動向を踏まえ、必要と判断される場合には、適宜、計画の追加・変更を行うこととします。

#### 進行管理と評価

